

## アブラムシの仕事

アブラムシの被害というのは、野菜の栽培をする方はほとんどの場合で経験するものです。僕もご多分にもれず、アブラムシに悩まされたので、アブラムシについて色々と観察してみました。

アブラムシは、何をやっているのか。その事を知るために、アブラムシが何を好んで植物に集まるかという事を調べてみると、植物が持つアミノ酸を摂取するためであることが分かります。アミノ酸は若芽の部分に多く存在するので、アブラムシは成長点を食い荒らしてしまうわけですが、アブラムシにとっても植物は栄養源ですから、成長点を食べて成長を止めてしまうのには必ず理由があるはずで

そこで、小松菜に集まるアブラムシを、駆除する畝と駆除しない畝を作って観察したところ、不思議な事に、駆除した列は全滅し、駆除しなかった列は見事に残るといふ逆転現象が起きました。よく見ると、アブラムシが集まる株の隣の株は無傷のようです。この事から推測できるのは、植物は虫食いにあうと、『周りにその事を知らせるといふ力があるのでは』ということ。事実、植物が持つエンドファイトと呼ばれる微生物は、そのような動きをするようです。結果的には、飛び飛びに無傷の株が残る事になるのですが、これにより、『アブラムシが間引きをしているのでは』という推測が出来ます。彼らこそが野菜の栽培者ではないかと想像できるわけです。

### 〈アブラムシの仕事〉

- 定植、播種はしゅうの時期調整⇒時期の見直し
- 間引き、摘心てきしん⇒必要以上に対処しない



アブラムシ



アブラムシを取ってしまった株は、そのことを周りに伝える事が出来ず、生き残ったアブラムシが翅はねアブラムシを産み、翅アブラムシは隣の株へと移っていく、結局、全滅してしまうということが起きている可能性があるわけです。つまり、アブラムシは間引きをしているという事ですから、人間が、適切なタイミングで間引きを行えばよいという事です。間引きはとも大切な管理方法です。で、虫食いを減らすためにも、かわいそうとかもつたいないとは思わず、隣同士の根と根がからむ前に必ず行ってください。

また、冬野菜などの定植を急ぎすぎた場合もアブラムシが集まります。これは早すぎる成長を停止させるために、いったん成長点を食べてしまっているのではと考えられます。これもアブラムシによる野菜の栽培と言えます。それを証明するかのように、時期が来ると野菜は育ってきます。もちろん、アブラムシが活動する時期が関係しているとも言えるわけですが、そういう習性を知ると、対処方法が想像できます。

その他にも、ソラマメなどにも大量のアブラムシが集まります。これは、成長点を食べる事で、背丈を伸ばすという「栄養成長」から、種をつける「生殖成長」への切り替えをアブラムシがやっていると考える事ができます。ソラマメは種を食べる作物ですから、栄養成長ばかりしていたのでは、いつまで経ってもマメはつかず、収穫できません。結局、アブラムシは栽培者の素晴らしいアシスタントと言えるわけです。ただし、このアシスタントが行き過ぎないように、人間が管理する必要があります。

「適切なタイミングで間引きをする。あるいは、必要のない葉を落とす」「定植する時期を守る」「早く定植する必要がある場合は、アブラムシが成長点を食べにやってくるので、寒冷紗かんれいしゃなどをかけてアブラムシの飛来をさえぎると同時に、寒冷紗によって光を少し弱らせ、光合成のスピードを遅らせる」などの対処が有効です。マメ科に関しては、アブラムシが来たら、摘芯という、いわゆる成長点を切り落として、アブラムシの仕事を先んじてしまい、仕事をなくすといった対処方法を行います。

もちろん、びっしりとアブラムシが集った場合は、水をかけるなどして個体数を減らすなどの対処も必要な場合もあるでしょう。それはアブラムシを捕食する虫がいないので、代わりに人間が行うというスタンスです。いずれにしろ、アブラムシも理由があつて飛来するのですから、理由を推測し、アブラムシの仕事を先回りするという方法が適切だと思えます。

### キャベツとアオムシの関係

アブラナ科の野菜にはモンシロチョウのようなチョウやガが集まって来ます。そして卵を産み、ふ化したアオムシが葉を食べ尽くしてしまいます。これも食べ始めると止まらなくなり、野菜が全滅してしまう事もあるでしょう。僕もたくさんのキャベツを作っていた頃にはモンシロチョウには悩まされました。しかし、モンシロチョウが現れる理由を推測する事で、対処が可能になりました。実はとても簡単な事です。

キャベツを育てていると、葉の形状や色に二種類ある事に気づきます。一つは外側の葉で、光合成をするために青々としています。この葉は外側に向けて大きく倒れ込んでいきます。もう一つは全く逆で、葉は立ち上がって内側に巻き、色は白く、水を弾きます。この二つの葉の違いを見るとある事に気づきます。外側の葉にはたくさんのアオムシが徘徊はいかいし、内側の葉はアオムシの被害が少なのです。この理由ですが、外の葉は光合成をし、窒素を多く保有し、かつアオムシがはい回りやすいように、葉が寝ていて、水を弾くロウ成分が少ないのです。反対に内側の葉は、アオムシがはい回りにくいように葉を立て、ロウ成分を多く出し、硬く巻く構造となっています。

理由を僕はこう考えました。外側の葉はアオムシに食べてもらうのが役割ではないかと。アオムシ